

掲
示
用

令和6年の交通事故統計分析結果

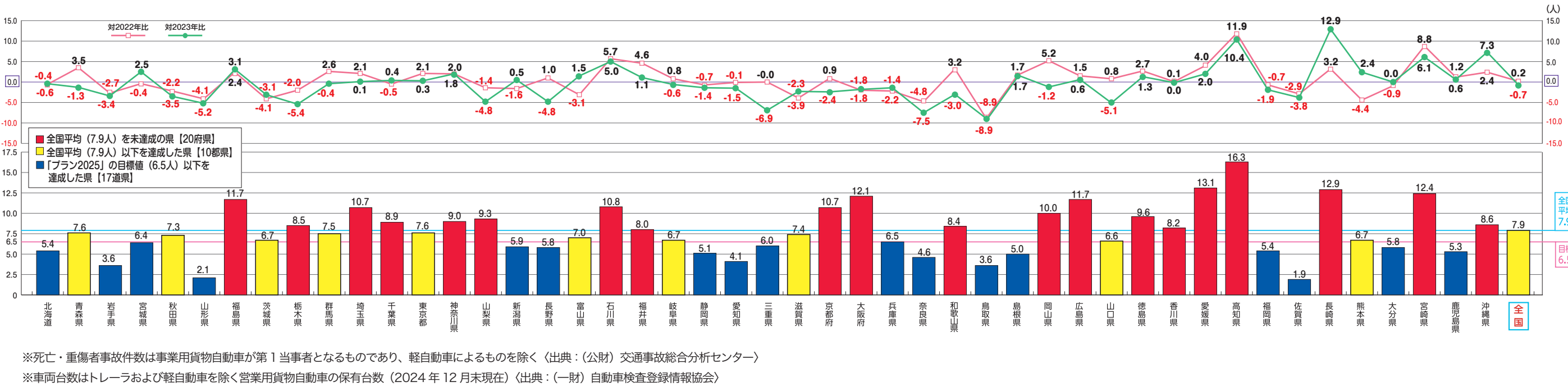
【車籍別】事業用トラックを第1当事者とする死亡・重傷事故

対象は事業用貨物自動車（軽を除く）が第1当事者となる死亡・重傷事故。なお、「車両相互」での第2当事者となる「車両」には道路交通法上の「軽車両」である「自転車等」を含む

国土交通省がトラック運送事業における令和7年度までに達成すべき目標値を「総合安全プラン2025」として公表したことを受け、全日本トラック協会では、「トラック事業における総合安全プラン2025」を定めて令和7年度までの目標を設定。この達成を目指して各種事故防止活動に取り組んでいます。

「トラック事業における総合安全プラン2025」目標値：車両台数1万台当たりの死者数と重傷者数の合計

「プラン2025」における各都道府県（車籍別）の共有目標として、「事業用トラック（軽貨物を除く）を第1当事者とする死者数と重傷者数の合計を車両台数1万台当たり『6.5人以下』」とすることを掲げましたが、令和6年は最終的に「7.9人」となり、令和5年の「8.6人」から減少したものの、目標達成には至りませんでした。

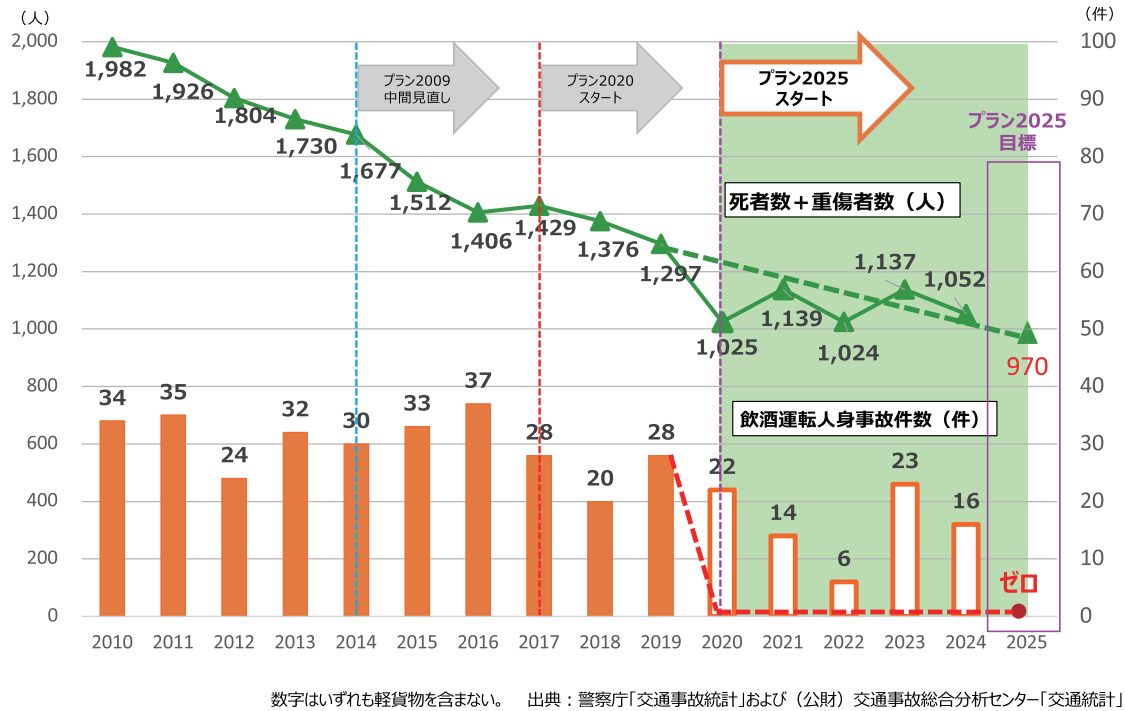


「プラン2025」数値目標と現況

令和6年中の死亡・重傷事故の合計件数は994件、死者数・重傷者数の合計は1,052人で、「トラック事業における総合安全プラン2025」の目標である「970人」は未達となっている。

事業用トラック1万台当たりの死者数と重傷者数の合計は7.9人で、目標である「6.5人」を1.4人上回った。

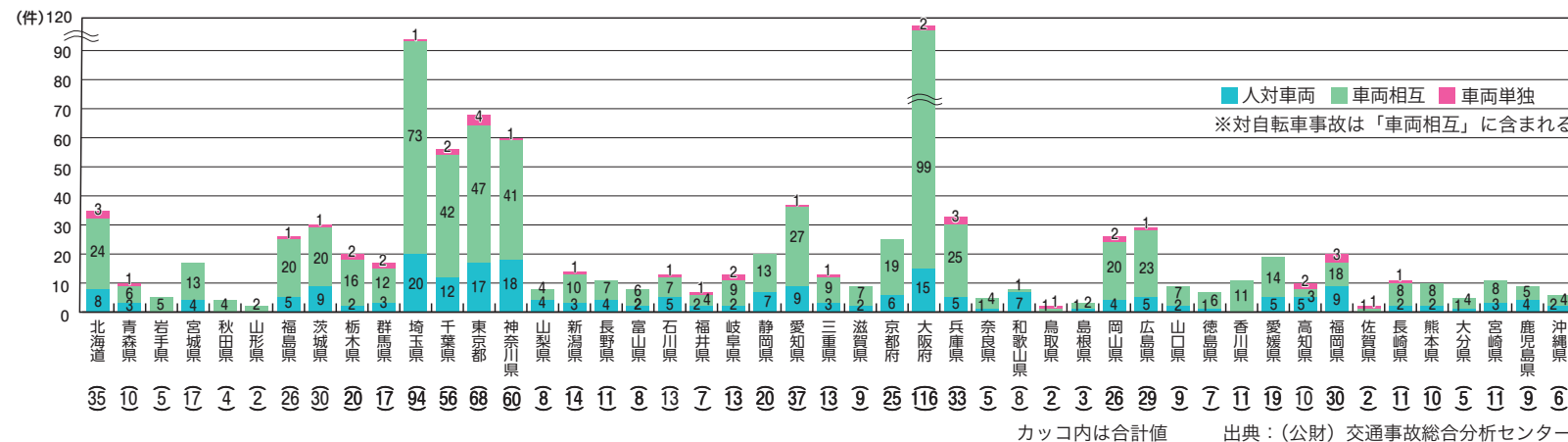
飲酒による人身事故件数は16件と、近年の減少傾向から一転、急増し、危機的な状況にある。



車籍別死亡・重傷事故の発生状況

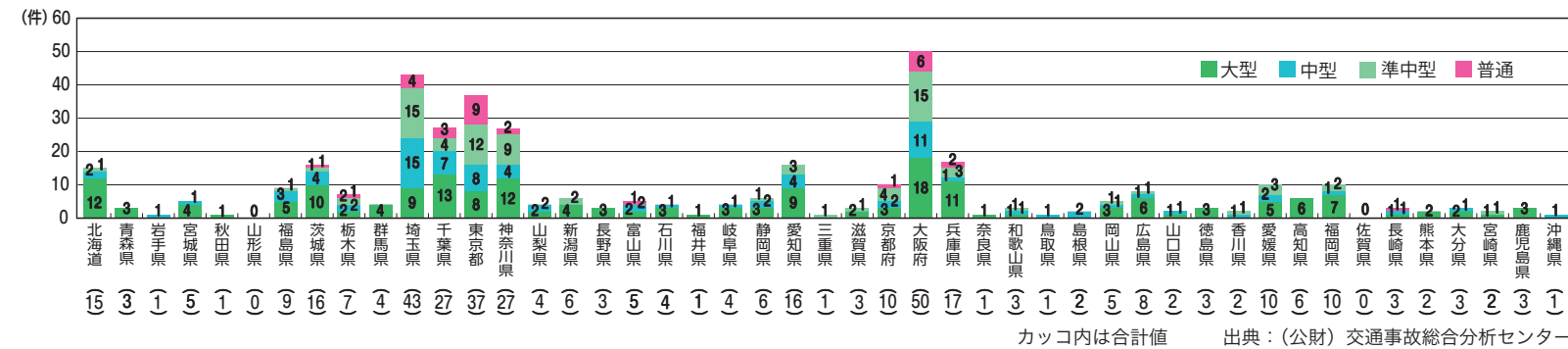
●事故類型別

死亡・重傷事故を事故類型別でみると、「車両相互」が多い傾向にあり、事故発生件数の多い順は、「大阪府」、「埼玉県」、「東京都」、「神奈川県」、「千葉県」、「愛知県」、「北海道」となっている。



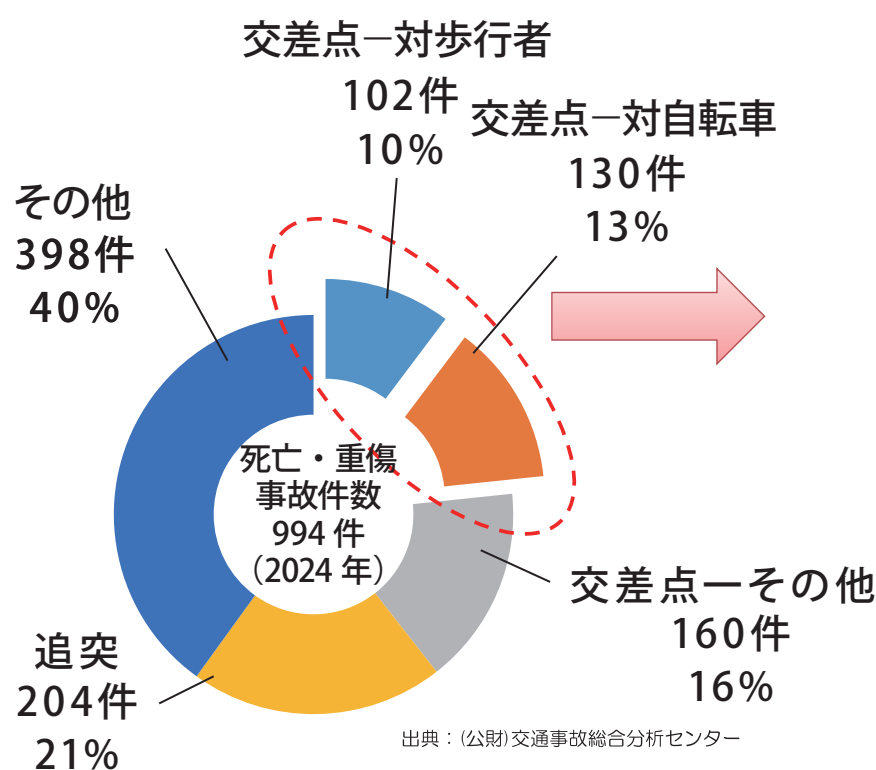
●交差点事故の車種区分別（追突を除く）

交差点での事故件数が最も多いのは「大阪府」、「埼玉県」と続き、車種区分では「大型車」が全体の約半数を占める。

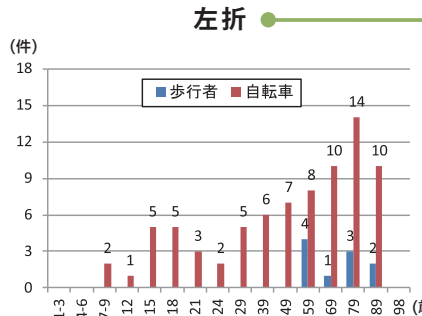


交差点における死亡・重傷事故（対歩行者・対自転車別）の発生状況

- ・事業用トラックが第1当事者となる交差点における死亡・重傷事故（232件）は、追突事故（204件）の約1.1倍
- ・「左折時」：9割近くが対自転車（78件）で、対自転車の8割以上が大型車
- ・「右折時」：8割近くが対歩行者（55件）で、対歩行者の5割近くが大型車
- ・「直進時」：対歩行者、対自転車がそれぞれ5割（37件）で、対歩行者の5割以上が大型車、対自転車の4割以上が準中型車



AI機能を備えた「側方衝突監視警報装置」への全ト協助成事業実施中
左折巻き込み事故防止対策
車両総重量7.5トン以上の事業用トラックを対象



大型車の左折時は特に自転車に注意！！



右折時は特に高齢歩行者に注意

出典：（公財）交通事故総合分析センター